

# 子供たちによる分水槽への描画

平成20年3月24日～28日の1週間、奈良県葛城市にて子供たちによる分水槽への描画イベントが行われました。これは、葛城市が主体となり、大和平野土地改良区、奈良県耕地課及び近畿農政局大和紀伊平野農業水利事務所が協力して行ったものです。

## 吉野川分水とは・・・

降水量の少ない奈良盆地へ吉野川（紀の川）からトンネル等を用いて農業用水や水道用水を運んできています。運ばれてくる水や運ぶ施設のことを総称して吉野川分水と呼んでいます。

## 分水槽とは・・・

吉野川分水を各地域に適切・公平に配分する施設です。



絵を描くのが好きな地元の方に下絵を描いてもらいました。子供たちはそれを元に、分水槽の壁面にチョークで下書きをし、ペンキで色を塗っていきました。図柄は、當麻寺や牡丹の花など地域にゆかりのあるものをモチーフにしなが、四季折々の風景を色鮮やかに表現したものです。毎日約30人の子供たちが両手に軍手、頭に工事用ヘルメットをかぶって各々白い壁面に向かっていました。

近畿農政局大和紀伊平野農業水利事務所では、十津川紀の川総合開発事業により造成された吉野川分水施設の改修事業を実施しています。

奈良県内の小学生は、高学年になると吉野川分水について学習するため、認知度は高いものの、一方で都市化が進行していることもあり、興味を持たれていない方も少なくありません。

左の写真のように、分水槽は一見「巨大なコンクリートの塊」でしかありません。この殺風景な分水槽の壁に絵を描くことで、吉野川分水の施設に触れる機会をつくり、イベントに参加した子供たちのみならず一般市民の方にも愛着を持っていただくというのが、このイベントの主な目的です。

今回、キャンバスとなったのは奈良県葛城市の分水槽です。この分水槽の描画イベントは平成19年5月に行ったものについて2回目ですが、今回は主に近所の小学校を卒業した子供たちに声をかけ、卒業記念にもなったイベントでした。



最初に「君たちが大人になるまで残る施設だから、きれいに塗るんだよ」と、説明を受けた子供たちは気合いを入れてとりかかりました。しかし、あまりに大きいキャンバスに、疲れて飽きる子が続出しました。また、下絵自体の描写が細かく、色の濃淡がきれいに描かれており、「難しいなあ」と弱音をはく子供もいました。そう言いながらも、子供たちはどのように色を塗ればよいかなどのアドバイスをもらったり、お互いどちらが綺麗に塗れたか競い合いながら楽しく取り組んでいました。



春には中学生になる子供たちにとって、春休みの1週間、みんなで取り組むことができ、いい思い出になったのではないのでしょうか。

今回のイベントを通じて、吉野川分水に愛着をもつ人が増え、水資源を大切にしようという意識が高まることを期待します。

お問い合わせ先TEL : 大和紀伊平野農業水利事務所 0744-21-5100

チョークで下書き



ペンキで型どり



ペンキで色塗り



足場の中は狭いなあ

